

<4月～6月のイベント情報> (協会主催・後援・加盟団体主催、出演等)

※協会の主催・後援イベントや加盟団体の活動を中心に掲載しました。詳細は、協会ホームページおよび「Fax メール通信」をご参照下さい。

< 4 月 >

- 15 (日) ピティナピアノステップ (協会後援)
- 22 (日) 檜之扇会日本舞踊発表会



< 5 月 >

- 3 (木)～5日 (土) 八丈祭 (LiFD、Heat up、MANACA、檜之扇会 出演)
- 6 (日) 「コマのたけちゃん」実演&ワークショップ (あびの実、協会共催)
- 13 (日) 花のまち音楽会 (八丈混声合唱団 出演)
- 13 (日) OJARE JAM (八丈ウインドオーケストラ 出演)
- 20 (日) 八丈名流祭 (協会後援、檜会、之津帆の会 出演)
- 26 (土) 27 (日) 小原流八丈支部 花の輪・人の輪、みんなの花展 (協会後援)



< 6 月 >

- 2 (土) 八丈島文化協会第7回総会
- 2 (土)・3 (日) 龍生派八丈支部60周年華展

八丈島文化協会 会報 第22号

八丈町三根4869-1 八丈島文化協会事務局 Tel/Fax 2-2833
HP: <http://www.8jobunka.jimdo.com/> e-Mail: bunkakyoukai8jo@yahoo.co.jp

2018年3月27日

文化協会懇親交流会を終えて

3月9日、富士見地区公会堂で開催。要望や意見交流、クイズなどで、盛り上がりました。

八丈島文化協会の会員懇親交流会が、3月9日富士見地区公会堂のホールで開催されました。文化協会が発足して5年目。懇親交流会は、会員が気軽に参加し、文化協会の反省すべきところや今後の在り方について、会員相互の意見交換が出来る場です、イベント等を通じて団体代表者の意見を聞くことはありますが、団員さん達のジャンルを超えた意見を直接聞いて、協会の親しまれる組織作りに反映させたいということで開催されたものです。今回は、ただ集まるのではなく、「パフォーマンス的な形での参加もできたらよいね」ということも考えました。

今回の参加は、参加者総数14名で、次のような意見交換がなされました。

- ① おじゃれホール客席で鑑賞していると、音量が大きすぎると感じることもある。演目にもよるが適切な調整をしてほしい。
- ② インフルエンザ流行時期の、ホールでのイベント開催はむずかしい。
- ③ ホール技術者の有資格者数は多いはずだが一部の技術者に負担がかかりすぎてはいないか。
- ④ 島の伝統芸能の継承をしたくて練習をしているが、文化フェスでも島の若者がほとんど見に来ていない、これで将来大丈夫なのか。

その後、「八丈島ものしりクイズ」の改正版の問題に挑戦しました。景品は、参加者が持参した八丈レモン、レモンドーナツ、ケーキ、お茶、小物とビールで、楽しい交流会となりました。

次回開催時にも、多くの方々の参加をお待ちしております



文協「レム」南風

「設立6年目のレム」

No.17

◆早いもので協会の6年度の活動が完了する。H29年度も協会の文化活動は滞りなく、成果を生みながら終了することができた。◆文化活動を日常的にやっている、島の皆さんが会場に足を運んで喜んでくださること、協会にいろいろ意見を言ってくれることが、何よりの励みになる。◆協会が主催・後援するイベントも増加傾向で嬉しい悲鳴状態になってきているが、これも島の文化環境が年々良くなっていく陰かと思う。多忙をやりがいに変化させながら頑張る理事や会員さんの活動に頭が下がる。◆協会は1回でも多く多様なジャンルの舞台芸術と地域にある文化をお届けしたいというのが願いだ、島内の団体や個人とも協力しながら、その機会が増えるつあるのも近年の嬉しい特徴である。そして何よりも島の方々の文化に関する関心、意識を高めて欲しいという希望がある。◆年度末の3月、会員さんの「交流の集い」を開いた。話は賑やかに島の文化環境づくりの多岐にわたるが、多いのは「多目的ホールおじゃれ」の利用、使い方などに対する要望や意見などである。東京諸島唯一の文化ホールは島民の誇りではあるが、使い方には島の人達のためにもう少し何とかないかという期待が込められている。◆そんな諸問題を協会が何とかしてほしいという期待の声も大きい。「子どもは地域の宝。協会はもつと子どもに目を向ける活動を」「こんなに活動しているのに何で助成金が少ないの」「活動が知られていない。もっと地域に根を張ってアピールを」など、建設的な意見、文句、激励が飛び交い、新たな課題をたくさん頂戴した。◆本欄でいつも言うことであるが、組織も活動も歴史も地域の認知度もまだまだ新米の協会であるが、会員と地域の声を支援の柱に、来るH30年度も精一杯尽力していきたい。見放すことなく引き続き、支援をよろしくお願ひします。

◆そして、ともに島づくりをするどんな声でもお届けください。

(会長 内山江差夫)



挨拶 (左: 山下和彦実行委員長、
右: 山下幸也町長)



Gold Breath(ゴールドブレス)



TAIQI (太極拳練習会)



無名劇団(仮)



八丈島民謡保存会



加オオカイヤパナ ~パ-万オガムア



八丈太鼓 月曜会



コウリマナニエ



日本民謡 朝元会



千田美鈴独唱



音声アンサンブルCon Anima



八丈島 soka 栄光バンド



檜之扇会



フラメンコサークル



八丈混声合唱団



M-isle Ballet

八丈島文化フェスティバル 2018

第29回八丈島文化フェスティバルが、2月18日、八丈町多目的ホール「おじゃれ」と町民ギャラリーで、のべ987人が来場して開かれました。舞台部門には、協会加盟の12団体と一般公募の6団体(うち2団体が初出場)、あわせて18団体が出演。「多様なグループの発表がありおもしろい。町民の文化祭としては非常にレベルが高いと思う」と島外の方がアンケートに書いてくださっていましたが、どの団体も、日ごろの成果が存分に発揮された、素晴らしいステージだったと思います。

エンディングは、初出場のアカペラバンド「たいむ's スクエア」の美しい歌声、トリのM-isle Ballateによるバレエに彩られた華やかな演出で、「来年は30周年」のパネルも登場。恒例の「風のうた」の全員合唱では、大人はもちろん、子どもたちの元気な歌声が響き渡りました。また、今年は司会の女性陣4人全員が、黄八丈の着物を着用。男性陣2人も黄八丈のネクタイを締め、入場者からも好評でした。

12日からスタートした作品展部門では、島をテーマにした組み木絵、「島ことばカルタ」の布絵本、「クジラ」のガラス細工、島の特産品をちりばめたクロスステッチ、島の自然素材を使ったクラフトなど、八丈をテーマにした作品が多かったように思います。また、八高定時制ブースや鉄道模型、子ども服など、新たな出展作も来場者の目をひいていました。

今年も、多くの方々のご支援とご協力のおかげで、フェスを無事、終了することができました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

今回、3人の八高生が舞台スタッフそして司会としてお手伝いしてくれました。その中の一人、菊池蓮さんの文章を紹介させていただきます。

「この度は、八丈島文化フェスティバルのスタッフとして活動することができ、自分にとっても良い経験となりました。実行委員会の方にスタッフを依頼され、自分自身高校3年生でこの3月で八丈島を出てしまうため、最後に島のために少しでも役に立てたのではないかと考えています。

担当していたのは舞台袖でのピアノや装飾の搬出入でした。ここ数年は文化フェスティバルを見に行く事がなく、久々に島の団体の皆さんの演技や演出を見て、とてもこだわっている方が多く、文化フェスティバルというものがあるのが演者の方々にとって重要なイベントである事が分かりました。自分が貢献と言えるほどの動きができたかは分かりませんが、舞台団体の皆さんが舞台袖に下がるときにロクにお礼を言ってくださるのを聞いたたびに、やってよかったと感じましたし、八丈島はやはり人が暖かい島だと感じました。

来年で30回を迎える文化フェスティバル。私はなかなか参加することも難しくなるとは思いますが、島を離れても、周りの人に島や文化フェスティバルのことを広め、少しでも八丈島のためにできることをやって行こうと思います。 菊池 蓮」

(八丈島文化フェスティバル実行委員会事務局長 山下久美子)



組み木絵



ガラス細工



刺繍作品



クラフト・洋裁



八丈高校定時制作品



布絵本・結



鉄道模型



Heat up



ちよんこめ作業所



たいむ'sスクエア



司会の皆さん



フィナーレ(30周年に向けて)